

# ヨエル書とラオデキヤ的セブンスデー・アドベンチスト教会 - 第三十八号

Jeff Pippenger

2026-01-30

## 第三十八番

天のパンの試練は、イエスの時代における弟子性のオメガの試練であり、また、古代イスラエルの契約史のアルファに表象されているマナの試練に関しても、それはオメガであった。初めはマナであり、終わりは天のパンであった。オメガは常に最大であるゆえに、弟子たちの最大の離反が、カペナウムを、キリストの歴史と弟子性の試練におけるオメガとして位置づける。

そこでイエスは弟子たちに言われた。「だれでも、わたしについて来たいと願う者は、自分を否み、自分の十字架を負って、わたしに従いなさい。自分のいのちを救おうとする者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失う者はそれを見いだすであろう。人がたとえ全世界を得たとしても、自分の魂を損じたなら、何の益があろうか。それとも、自分の魂と引き換えに、人は何を与えうるだろうか。人の子は、父の栄光のうちに御使いたちを伴って来るであろう。そのとき、彼は、おのおのの行いに応じて報いを与えるであろう。まことに、あなたがたに言う。ここに立っている者の中には、人の子がその御国をもって来るのを見るまでは、決して死を味わわない者がいる。」  
マタイによる福音書 16:24-28.

カペナウムはオメガの試験である。カペナウムにおける試験とは、十人の乙女のたとえにおける油の試験であり、それは真夜中の叫びをもって始まり、愚かな乙女たちが自分たちに油がないことを悟る時期を含む期間を開始する。彼らはその後、ヨハネ6章66節におけるカペナウムの危機によって表象されているように、日曜法の戸が閉じつつあるところへと近づくにつれて、狼狽し始める。預言的には、彼らは「恥を見る」。

見よ、その日々が来る、と主なる神は言われる。わたしはこの地に飢饉を送る。それはパンの飢饉ではなく、水に渴くことでもなく、主の言葉を聞くことの飢饉である。彼らは海から海へ、北から東にまでさまよい歩き、主の言葉を求めてここかしこ走り回るが、これを見いだすことはない。その日には、美しいおとめも若い男も、渇きのために衰え果てる。サマリアの罪によって誓い、「ダンよ、おまえの神は生きている」と言い、「ベエル・シェバの道は生きている」と言う者たち、その者たちは倒れて、再び起き上がることはない。アモス 8:11-14.

カペナウムにおけるオメガの試験は、2024年の基礎となる試験に続くオメガの試験を予表している。オメガの試験とは、花嫁が日曜法に先立って封印される時である。それは分離が永遠に最終的に確定される時である。ひとたび彼女が純潔とされるなら、もはや他国人（異邦人）は、永遠に再びエルサレムを通して歩むことがないからである。

主はまたシオンからほえ、エルサレムから御声を発せられる。すると、天も地も震え動く。しかし主は、その民の望み、イスラエルの子らの力となられる。こうして、あな

たがたは、わたしが、わが聖なる山シオンに住む、あなたがたの神、主であることを知るであろう。そのとき、エルサレムは聖なるものとなり、もはや異邦人がその中を通ることはない。

その日には、山々は新しいぶどう酒を滴らせ、丘々は乳を流し、ユダのすべての川は水であふれ、主の家から泉が湧き出て、シッティムの谷を潤す。

エジプトは荒廃となり、エドムは荒涼たる荒野となる。ユダの子らに対する暴虐のゆえである。彼らがその地で無辜の血を流したからだ。しかしユダはどこしえに住み、エルサレムは世々に至るまで存続する。それは、わたしが、いまだ清めなかった彼らの血を清めるからである。主はシオンに住まわれるからである。ヨエル書 3:16-21。

エルサレムは、調査審判の最終段階において罪から清められる。ゼカリヤ書三章においては、汚れたラオデキヤの衣に代えて、白い亜麻布のフィラデルフィアの衣がヨシュアに与えられる場面である。「そのときエルサレムは聖とされ、もはや異国の者が彼女を通り過ぎることはない。」麦は毒麦から分けられ、初穂の献げ物として集められたからである。これはオメガの試練において起こり、また天の窓が開かれるとき、イエスが宝石を小箱に投じて世界に向かい「来て見よ」と言われるときに起こる。「来て見よ、わが御国の旗印を。わが花嫁を。昔の日のようなわがレビ人の献げ物を。」「来て見よ、わが宮を。宝石で満ちたわが小箱を—それぞれが栄光の御国の冠の一部として整えられている—。」

2024年の基礎となるアルファの試練は、神殿のオメガの試練へと導く。オメガの試練は、天の窓が開かれるとき、すなわち花嫁が自らを整えるときに起こる。愚かな乙女たちと、彼女たちが唱える「平和と安全」という偽りの後の雨のメッセージは、風によって開かれた天の窓を通して吹き払われる。これは、この歴史のメッセージが東風のメッセージであるからである。そのメッセージは、東風の日にとどめられるイザヤの荒い風であり、また、十四万四千人の封印の時に抑えられているヨハネの四つの風である。

天使たちは四方の風を押さえている。それは、つなぎを断ち切って全地を駆け抜け、その行く先々に破壊と死をもたらそうとする怒れる馬として表されている。

「永遠の世界のまさに瀬戸際で、私たちは眠っていようというのか。私たちは鈍く、冷たく、死んだままでいようというのか。ああ、私たちの教会に、神の霊と息がその民に吹き込まれ、彼らが自らの足で立ち、生きることが出来ますように。」『Manuscript Releases』第20巻、217頁。

イスラムの東風というそのメッセージを退ける者たちは、風によって窓の外へ吹き飛ばされる。その風こそ、彼らの反逆の象徴そのものである。油のない愚かな階級には、誤謬の塵芥が永遠に付着して離れない。エフライムは再びその偶像に結び付いた。彼らは、封印の時に関する知識の増し加わりと、第三の災いにおけるイスラムとの関連とを、退けた。神は、彼らの偽りの後の雨のメッセージの栄光を、「恥」へと変えられる。

わが民は知識を欠くがために滅ぼされる。あなたが知識を退けたゆえに、わたしもまたあなたを退け、あなたをわたしのための祭司とはしない。あなたがあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる。

彼らが増し加わるにつれて、わたしに対して罪を犯した。それゆえ、わたしは彼らの栄光を恥に変える。彼らはわが民の罪を食い尽くし、彼らの不義に心を向ける。そして、民と同じく、祭司もまたそのとおりとなる。わたしは彼らの道のゆえに彼らを罰し、彼らの行いに応じて報いる。彼らは食べても満ち足りず、淫行を行っても増し加わらない。主に心を留めることをやめたからである。淫行と酒と新しい酒とは心を奪い去る。わが民はその木に託宣を求め、その杖が彼らに告げ知らせる。淫行の霊が彼らを迷わせ、彼らは自分の神のもとから離れて淫行に走った。彼らは山の頂でいけにえをささげ、丘の上で香をたき、樅やポプラやニレの木の下で、その陰がよいからである。それゆえ、あなたがたの娘たちは淫行を行い、あなたがたの妻たちは姦淫するであろう。わたしは、あなたがたの娘たちが淫行を行っても罰せず、あなたがたの妻たちが姦淫しても罰しない。彼ら自身が娼婦と交わり、遊女と共にいけにえをささげているからである。それゆえ、悟りのない民は倒れるであろう。

イスラエルよ、たとえあなたが姦淫を行っていても、ユダは罪を犯してはならない。ギルガルに行ってはならず、ベテ・アベンに上ってはならない。「主は生きておられる」と誓ってはならない。イスラエルは、背き退く雌の子牛のようだ。今や主は、広い所にいる小羊のように彼らを牧される。

エフライムは偶像に結びついている。彼をそのままにしておけ。

彼らの酒は酸敗した。彼らは絶え間なく姦淫を行っている。その支配者たちは恥を愛し、「与えよ」と言う。風はその翼のうちに彼女を縛り上げ、彼らは自分たちのいけにえのゆえに恥を見るであろう。ホセア書 4:6-19。

取り除かれる塵芥とは、愚かなおとめたちと、彼女らが結びついている誤謬の教理の双方である。われわれは食するものそのものであり、彼女らは東の風のメッセージを退け、その跡に強い惑わしをもたらす偽りを選び、にせの「平和と安全」の後の雨メッセージに結び合わされた。ヨエルの新しいぶどう酒は、まさにエレミヤが神の口となるところで、彼女らの口から断ち切られている。

真理を拒むとき、人はその創始者をも拒む。神の律法を踏みにじるとき、彼らは立法者の権威を否定する。木や石で偶像を形づくるのと同じくらい、偽りの教理や理論を偶像とすることは容易である。サタンは神の属性を偽って伝えることにより、人々に神を偽った御性質をもつお方として思い描かせる。多くの者においては、ヤハウエの座に哲学的偶像が据えられており、一方、御言葉とキリストと創造の御業において啓示されている生ける神を礼拝する者はごくわずかである。幾千の人々が、自然の神であられるお方を否定しながら、自然を神格化する。形こそ異なれど、偶像崇拜は、エリヤの時代の古代イスラエルにおいて存在したのと全く同様に、今日のキリスト教界にも実在している。自ら賢いと称する多くの人々、哲学者、詩人、政治家、新聞記者の神-洗練された流行の社交界、多くの学院や大学、さらにはいくつかの神学教育機関の神-は、フェニキアの太陽神バアルと大差ない。『大いなる論争』583頁。

ミラーの夢における真と偽の分離に際して、風は偽のおとめたちを運び去り、一方、主は開かれた窓におけるオメガの内的試練の間にご自身の花嫁に印を押される。

見よ、わたしは使者を遣わす。彼はわたしの前に道を整える。あなたがたが求める主が、突然その宮に来られる。あなたがたが喜ぶ契約の使者も。見よ、彼は来る、と万軍の主は言われる。しかし、彼の来る日をだれが耐えられようか。彼が現れるとき、だれが立っていられようか。彼は精錬する者の火のようであり、洗濯する者の灰汁のようである。彼は銀を精錬して清める者として座し、レビの子らを清め、彼らを金や銀のように精錬する。彼らが義にかなったささげ物を主にささげるためである。そのとき、ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日々、いにしえの年のように、主に喜ばれるものとなる。マラキ 3:1-4.

レビの子らとは、アロンの獣の像の試練において忠実であり、さらにヤロブアムの獣の像の試練においても再び忠実であったレビ人たちの子らである。彼らは獣の像の試練を通過する者たちであり、その試練は彼らの永遠の運命が決定される試練であり、また私たちが封印される前に彼らが通過しなければならない試練である。

主は私に、恩恵期間が閉じる前に獣の像が形成されることをはっきりと示された。なぜなら、それが神の民にとっての大いなる試練となり、それによって彼らの永遠の運命が決定されるからである。

「これは、神の民が神の印を受ける前に受けなければならない試練である。神の律法を守り、偽りの安息日を受け入れることを拒むことによって神への忠誠を証明したすべての者は、主なる神エホバの旗印のもとに列し、生ける神の印を受けるであろう。天からの真理を譲って日曜安息日を受け入れる者は、獣の刻印を受けるであろう」セブンスデー・アドベンチスト聖書注解 第7巻、976ページ。

獣の像の試練は、日曜法における獣の刻印の試練に先立つ試練であり、戸が閉ざされる前に通過しなければならない。

それは、義人を清め、また義人と不義の者とを分かち試練である。それは、ダニエル、シャデラク、メシャク、アベデネゴが、バビロンの食物を食した者たちよりも、容貌においてより美しく、また肉も肥えていたと見いだされた、あの試練である。一方の者たちは天のパンを食し、他方の者たちはバビロンのパンを食した。それは、カペナウムの会堂におけるパンをめぐる試練である。

外面的には、私たちが現在置かれている試練の時は、獣の像、すなわちアメリカ合衆国における教会と国家の結合をめぐる試しである。これと並行する内的な試練の時は、人性の像を現すおとめの一群と、神性と人性が結合した像を現す別のおとめの一群とを識別する。マラキがレビ人の清めと精錬を明らかにした後、神は一つの試しを設けられる。

そしてわたしは裁きのためにあなたがたに近づく。わたしは、呪術者、姦淫する者、偽って誓う者、雇い人の賃金を搾取し、やもめとみなしごを虐げる者、寄留者の権利を曲げる者、そしてわたしを恐れない者に対して、速やかな証人となる、と万軍の主は言われる。

わたしは主である。わたしは変わらない。ゆえに、ヤコブの子らよ、あなたがたは滅ぼし尽くされない。マラキ 3:5, 6.

第一の試験は神を畏れることであり、契約の使者による試験に不合格となった類型には、その後、五つの譴責が宣言される。それは、「惨めで、哀れで、貧しく、盲目で、裸であること」に対応する愚かな乙女たちそれぞれに一つずつのものであり、すなわち五人の愚かな乙女に対する五つの預言的属性であって、「そして、わたしを畏れない」という一句に要約される。これらは、根本的な第一のアルファ試験に不合格となった者たちである。神は決して変わらないことを理解しなかったがゆえに、彼らは失敗したのである。これらは、2024年の根本的な外的アルファ試験に不合格となった者たちである。

過去の歴史から学ぶべき教訓がある。これらに注意が喚起されるのは、神が今も昔と変わらぬ同じやり方で働いておられることを、すべての人が理解するためである。神の御手は、御業のうちに、また諸国民の間において、今も見て取ることができる。それは、エデンでアダムに福音が最初に宣べ伝えられて以来、ずっと変わらない。

国々の歴史や教会の歴史には、転機となる時期がある。神の摂理により、こうしたさまざまな危機が到来するときには、その時にふさわしい光が与えられる。それを受け入れるなら霊的な前進があり、拒むなら霊的な衰退と難破が後を追う。主はみことばのうちに、福音の積極的な働きが過去にどのように進められてきたか、また将来いかに進められるかを、サタンの諸勢力が最後の驚くべき動きをする最後の闘いに至るまで、明らかにしておられる。Bible Echo, 1895年8月26日。

ラオデキア人は、神の人間に対する取り扱いが常に不変であることを悟らない。光、あるいは油を受け入れるなら祝福があり、そうでなければ難破に至る。

いにしえの時代に、天の神、主はご自身の奥義を預言者たちに啓示された。現在も未来も、主にとっては等しく明らかである。神の御声は世々にわたって響き渡り、人に何が起こるのかを告げている。王たちと君侯たちは、定めの際にそれぞれの位に就く。彼らは自分たちの意図を遂行していると思っているが、実際には主が語られた御言葉を成就しているのである。

パウロは、神が過去に人類をどのように取り扱われたかの記録は「世の終わりの時が到来した私たちへの戒めとして書かれている」と宣言している。ダニエルの歴史は、私たちへの戒めとして与えられている。「主の奥義は、主を畏れる者とともにある」。ダニエルの神はいまなお生き、統べ治めておられる。彼はご自分の民に対して天を閉ざしてはおられない。ユダヤの時代においてそうであったように、この時代においても、神はそのしもべである預言者たちにご自身の奥義を啓示される。

使徒ペテロは言う。「わたしたちは、いっそう確かな預言の言葉をもっている。あなたがたが、それに、暗い所に輝くともしびれに対するとおりに注意を払うのは、よいことである。それは、暁が明け、明けの明星があなたがたの心に昇るまでのことである。まず第一に知っておくべきは、聖書のいかなる預言も、私的な解釈に属するものではないということである。というのも、預言は、かつて人間の意志によってもたらされたのではなく、むしろ、神の聖なる人々が、聖霊に動かされて語ったからである。」

不信仰にして不敬虔な者たちは、預言の言葉において前もって告げられた時のしるしの重要性を識別しない。彼らは無知のゆえに、靈感を受けた記録を受け入れることを拒むこともある。しかし、自らキリスト者であると称する者が、御旨を知らせるため

に大いなる「わたしはある」なる方が用いられる方法と手段について嘲るように語る  
とき、彼らは自分たちが聖書にも神の御力にも無知であることを露わにしている。創  
造主は、人間性のうちにおいて扱うべき要素が何であるかを正確に知っておられる。  
所期の結果を得るために、どのような手段を用いるべきかも知っておられる。

人間の言葉は誤りうる。人間の主張を頼みとする者は、震えおののくべきである。やが  
て彼は難破船のようになるからである。神の御言葉は無謬であり、永遠に存続する。キ  
リストは言われる、「まことに、あなたがたに言う。天地が消え去るまでは、すべて  
が成就するまで、律法から一点一画たりとも、決して消え去ることはない。」神の御  
言葉は、永遠の世々に至るまで存続する。『ユース・インストラクター』1903年12月1  
日。

神は決して変わることがなく、常にしてこられたのと同じ筋道に沿って御業をなさる。

地上における神の働きは、時代から時代へと、あらゆる大改革や宗教運動において顕  
著な類似を示している。神が人を取り扱われる原則は、いつの時代も同じである。現代  
の重要な運動には過去のそれに対応するものがあり、昔の時代における教会の経験は  
、私たちの時代にとって大いに価値ある教訓を含んでいる。『大いなる争い』343頁。

マラキ書第3章の最初の四節は、契約の使者のために道を備える使者と、レビ人の潔めと  
精錬とを明らかにしている。続いて主はラオデキヤに対して裁きを宣告し、彼らが神を畏  
れないことを指摘する。すなわち、彼らは第三の天使の基礎的アルファの試験に失格した  
ことを意味する。彼らの畏れの欠如は、知識の意図的な拒絶を表しており、彼らが拒むそ  
の知識の文脈とは、道を備える使者の歴史の受容と、その後続く神的な使者の受容で  
ある。すべての預言者は終わりの日を指し示しており、真正が存在しなければ、偽りの改  
革運動を識別する理由はない。

しかしサタンは手をこまねいてはいなかった。彼は今、他のあらゆる改革運動で常に  
企ててきたこと、すなわち真の働きの代わりに偽物を押し付けて人々を欺き、滅ぼす  
ことを試みた。キリスト教会の第一世紀に偽キリストがいたように、十六世紀には偽  
預言者が現れた。『大いなる論争』186。

マラキ書三章の最初の六節の文脈は、十四万四千人の改革運動のレビ人たちの精錬と清  
めである。フューチャー・フォー・アメリカは、まさにその運動そのものであるか、さも  
なければ数多くある偽りの模倣の一つである。そしてマラキは次のように述べる。

あなたがたは父祖の時代以来、わたしのために背き、それを守ってこなかった。わた  
しに帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたに帰る、と万軍の主は言われる。マラキ  
3:7

四世代にわたる漸進的な反逆は、ヨエル書の導入と背景設定であり、ここでマラキは「  
あなたがたは父祖の日から離れ去っている」と言って、同じ漸進的反逆を指摘している。  
1863年、すなわち反逆の第一世代の父祖の時代以来、彼らは神からますます遠ざかって  
いった。彼らの絶え間ない罪に対する宣告は、悲嘆に満ちた口調のラオデキヤの呼びかけ  
によって和らげられている。それは、もし彼らがただ立ち帰るなら、神も彼らに立ち帰ら  
れると約束するものである。

しかし、あなたがたは言う、「どのようにして私たちは立ち返りましょうか。」人が神から奪うことがあろうか。ところが、あなたがたはわたしから奪った。なおもあなたがたは言う、「どのことで私たちはあなたから奪ったのか。」十分の一と献げ物においてである。あなたがたは呪いをもって呪われている。というのも、あなたがたはわたしから奪ったからである。この全民族までも。

十分の一の献げ物をことごとく倉に納めて、わが家に食物があるようにせよ。そして、今このことで、わたしがあなたがたのために天の窓を開き、祝福をあなたがたに注ぎ出して、収める場所もないほどにするかどうか、わたしを試してみよ、と万軍の主は言われる。

わたしはあなたがたのために食い荒らす者を叱責し、彼はあなたがたの地の実りを減ぼすことはない。また、野においてあなたがたのぶどうの木が時ならぬうちにその実を落とすこともない、と万軍の主は言われる。すべての国々はあなたがたを祝福された者と呼ぶ。あなたがたは喜ばしい地となるからである、と万軍の主は言われる。マラキ書 3:5-12。

2024年のアルファに当たる基礎的な外部の試みの後に、2026年の冠石に当たる内部の試みが続く。その冠石の試みは、天の窓が開かれるときに起こる。そして、凱旋の教会の文脈において、その開かれた天の窓が特定される三つの箇所は、マラキ書三章、ミラーの夢、黙示録十九章である。マラキはアルファ、ミラーの夢は中間、黙示録はオメガである。その試みは、塵払いの男としてのキリストが宝石を小箱に投じることによって、例証されている。その宝石は、秩序正しく完全に配列された真理であると同時に、残りの民でもある。倉とは、「食物」が集められ、分配される場所である。マナの試み、カペナウムの試み、そして天からのパンの場合と同様に、「食物」が主題である。

「肉」は、乙女たちのたとえにおいては油であり、それは人格、聖霊、そしてキリストの品性を培う者たちの心と思いに聖霊をもたらす預言的メッセージを表している。「肉」は、エフライムの酔いしれる者たちから断たれる、ヨエルの「新しいぶどう酒」である。第二の天使による、神殿の頂石に関する内的試練に合格するためには、外的な最初のアルファの基礎的試練にすでに合格していなければならない。もしその基礎を受け入れていないなら、その基礎の上に築き上げられる神殿の一部となることはできない。しかし、もしあなたがその基礎的試練を通過した者たちの数に加えられていないなら、あなたは霊的な偽の家を砂の上に建てることになる。ヨハネはその偽りの霊的家を「サタンの会堂」と呼び、エレミヤは「あざける者の会衆」と呼ぶ。

「十分の一とささげ物のすべてを倉に携えて来よ」という命令は、封印が刻印される内的な試練である。塵を払う者は、神の残りの民を拡大された小箱に投げ入れたが、そうすることによって、すべての十分の一を倉に携えて来よという働きを象徴的に示していた。天の窓から祝福が注ぎ出されるとき、レビ人は高く掲げられるささげ物である。塵を払う者の宝石は彼の残りの民であり、イザヤ書六章では、その残りの民が十分の一として同定されている。

そこで私は言った、「主よ、いつまでですか。」彼は答えられた、「町々は住む者がなく荒れ果て、家々には人がいなくなり、地は徹底的に荒廃するまで。主が人々を遠

くへ移し、この国のただ中に大なる離散が起こるまで。しかしなお、その中に十分の一が残り、それは戻って来るが、また滅ぼし尽くされる。テレビンの木や櫨の木が、葉を落としても切り株が残るように、その聖なる種がその切り株となる。」イザヤ書 6:11-13

主は、「いつまでか」という問いを、複数の証人による証しにおいて日曜法を指し示すものとして同定しておられる。さらに、イザヤ書六章三節では、御使いたちが「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主。その栄光は全地に満ちている」と宣言する。ホワイト姉妹は、これを黙示録十八章の力ある御使いと関連づけている。

彼ら〔天使たち〕は、やがて全地が主の御栄光で満たされるときを見つめつつ、調べも美しい詠唱のうちに、互いにこだまし合って「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主」と勝利の賛歌を響かせる。彼らは神をあがめることで完全に満ち足りており、御前で、主の御喜びの微笑みのもとにあって、それ以上何も望まない。主の御かたちを帯び、主に仕え、主を礼拝することにおいて、彼らの最高の志は完全に達せられる。Review and Herald, 1896年12月22日。

イザヤ書六章は、黙示録十八章の二つの声のうち第一の声の栄光によって地が照らされた時、すなわち9/11を指し示している。イザヤが「いつまでですか」と問うと、この章の歴史は、第二の声が到来する日曜法に至るまでの、9/11からの期間として位置づけられる。イザヤは、日曜法の時に、十分の一である残りの者がいることを告げている。その残りの者は、自らの内に実質を有している—すなわち、器の中の油である。

しかし、その中にはなお十分の一〔什一〕があり、それはまた戻り、食い尽くされるであろう。テレビンの木やカシの木が、葉を落としてもその切り株が残るように、聖なる種がその切り株となるであろう。イザヤ書6章13節

「十分の一」とは、マラキおよびエレミヤの「立ち帰れ」との呼びかけに応じて「立ち帰った者たち」である。彼らは人類の木々であり、神性（聖なる胤）と結び合わされている。彼らは食されるであろう。というのも、彼らは単に使者であるのみならず、五旬祭の揺り供えのパンの標旗であり、異邦人が食するメッセージそのものだからである。

それゆえ、主はこう言われる。「もしあなたが立ち帰るなら、わたしはあなたを再び連れ戻し、あなたはわたしの前に立つであろう。もしあなたが卑しいものから尊いものをより分けるなら、あなたはわたしの口のようになる。彼らはあなたのもとに立ち帰るがよい。しかし、あなたは彼らのもとへは戻ってはならない。」エレミヤ書15章19節

エレミヤは、御使いの手にあるメッセージ、すなわち1840年8月11日、1888年、そして9/11によって表象されたアルファにして基礎的な試験を食した者たちを象徴する。彼は自ら、言葉を見出してそれを食べたと言うからである。

私はあなたの御言葉を見だし、それを食べました。あなたの御言葉は私の心の喜びと楽しみとなりました。私はあなたの名によって呼ばれているからです。万軍の主なる神よ。エレミヤ書 15:16.

エレミヤは、天使の手にあった小さな巻物を食べたとき、神の御名をもって呼ばれ、その言葉は、恥ではなく、喜びと歓喜をもたらした。神の御名がエレミヤに与えられるとき、彼はフィラデルフィアの人々である十四万四千人を代表している。

勝利を得る者を、わたしはわたしの神の神殿において柱とする。彼はもはやそこから出ることはない。また、わたしは彼の上に、わたしの神の名と、わたしの神の都の名、すなわち天から、わたしの神のもとから下ってくる新しいエルサレムの名を書き記す。また、わたしの新しい名を彼の上に書き記す。ヨハネの黙示録 3章12節

エレミヤは9/11のメッセージを食べ、2020年7月18日の失望を味わった。

わたしは、あざける者の会衆に座しもせず、喜びもしなかった。あなたの御手のゆえに、わたしは独り座した。あなたがわたしを憤りで満たされたからである。なぜ、わたしの痛みは絶え間なく、わたしの傷はいやしがたく、いやされることを拒むのか。あなたは全く、わたしにとって偽り者、また涸れゆく水のようにであられるのか。エレミヤ書 15:17, 18

エレミヤの「あざける者の会衆」とは、フィラデルフィアとスミルナにおける「サタンの会堂」、すなわち自分はユダヤ人であると言っているが実はそうではない者たちのことである。エレミヤが喜ばなかったのは、彼が告げたメッセージが偽りであり、喜びではなく恥だけを生み出したからである。エレミヤの「いやされることを拒む、絶え間ない傷」とは、死に絶えて乾ききった骨の谷を貫く街路でエレミヤ、モーセ、エリヤが死んでいたあいだ、あざける者の会衆が喜んでいて三日半のことであった。その疑念と不確かさの時期のただ中で、主はエレミヤに立ち帰るよう求められた。

それゆえ、主はこう言われる。もしあなたが立ち帰るなら、わたしはあなたを再び受け入れ、あなたはわたしの前に立つであろう。もし卑しいものから尊いものを取り分けるなら、あなたはわたしの口となる。彼らをあなたのもとに立ち帰らせよ。だが、あなたは彼らのもとへ立ち帰ってはならない。わたしはあなたをこの民に対して、堅固な青銅の城壁とする。彼らはあなたに向かって戦いを挑むが、あなたに打ち勝つことはできない。わたしがあなたと共にいて、あなたを救い、あなたを救い出すからである、と主は言われる。わたしはあなたを悪しき者の手から救い出し、強暴な者の手から贖い出す。エレミヤ書 15:19-21。

もしエレミヤが立ち帰るなら、神は彼を、青銅の城壁として表象される軍勢とならせられるであろう。「悪しき者」も「恐るべき者」もこれに向かって戦いを挑むが、勝ち得ることはない。これは白馬の軍勢であり、その騎手たちは白い亜麻布の軍装をまとっている。その軍勢、すなわち青銅の城壁は、エレミヤが立ち帰るとき、すなわち彼が尊きものを卑しきものから分けるときに起こされる。エゼキエル書三十七章において、ホワイト夫人が神の残りの民であると言う軍勢は、彼らが帰って来たときに立ち上がる。残りの者は帰還し、尊きものと卑しきものを分けるとき、力ある軍勢として立ち上がり、そのとき彼らは神の口となる。彼らは、最上のパンを整えることを専門とした粉ひき人であった父が採用したのと同じ規則を用いているので、真理のこぼれを正しく取り扱い、麦と粃殻をより分けねばならない。もし彼らが尊きものを卑しきものから、真理を誤謬から分けるなら、神が悪しき者と賢い者とを分けられるとき、彼らは神の見張り人となるであろう。

エレミヤは2023年に帰還の召しに応じ、ついで2024年には、ローマが幻を確立するという基礎的試練において大きな一団が離脱したため、失望した。エレミヤは尊きものを卑しきものから、真理を誤謬から正しくより分け、天の窓が開かれるに及ぶ内的オメガの試練に至るまで歩みを続けた。天が開かれるとき、凱旋の教会は自らを整え終えている。彼女は基礎的な外的アルファの試練に合格し、さらに天の窓にかかわる内的オメガの試練にも合格した。彼女は合格して神の軍勢の一部となるか、さもなければ風に吹き払われて窓から追い出される。彼女は、イザヤ書二十二章のシェブナのように広い野へ投げ出されるか、あるいは宝石箱に投げ込まれる。彼女は宝石箱に投げ入れられるか、あるいは、ネヘミヤがトビヤを追い出し、またキリストが両替人を追い出したように、神殿から追放される。塵払いの男が宝石を宝石箱に投げ入れるとき、その宝石箱とは、真理の新たな枠組みにおける神の御言葉であるか、あるいは神の神殿である。いずれもキリストの象徴であり、キリストは分割されてはならない。

キリストは分けられたのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。それとも、あなたがたはパウロの名によってバプテスマを受けたのですか。コリント人への第一の手紙 1章13節

キリストはパウロから分離されていない。神性はパウロの人性から分離していなかった。人としてのパウロが神性の名によって洗礼を受けたとき、そこに分離はなかった。というのも、人間の使者は神的なメッセージと結び合わされているからである。パウロは、エフライムが自らの偶像に結びつけられていたのと同じ確実さで、神性に結び合わされていた。

ミラーの夢で神殿（宝石箱）に投げ入れられるものは、倉に携え入れられるべきマラキ書三章の十分の一であり、そこでは食物が蓄えられ、分配される。その倉は十四万四千人の神殿、すなわちペテロが述べたように「霊的な家、聖なる祭司職」である。宝石箱は霊的な家であり、宝石は祭司職である。このゆえに、ミラーの夢は「81」頁に記録されており、この数字は神的な大祭司と八十人の人間の祭司との結合の象徴である。

ミラーの夢において、ちり払いの男は、彼が宝石（それはイザヤの十分の一であり、マラキのささげ物である）を、宝物倉であり宝石箱でもある神殿に投げ入れるとき、宝石を携えて来ることを例証している。第二の天使をめぐっては、しばしば二つの問いが伴う。また、オメガの試験は、アルファの試験および第三のリトマス試験との関係において、第二の天使に当たる。召しは立ち返りへのものであり、立ち返りは、彼の家に食物があるように、すべての十分の一とささげ物を宝物倉に携え入れることによって示される。ここでの二つの問いは、「『食物』とは何か」と「『宝物倉』とは何か」である。

宝石が使者を指すのか、あるいは宝石が使信を指すのかが、その二つの問いがどのように答えられるかを規定する。もしそれが使者であるなら、彼らは第二の段階で常に建立される神殿を構成する十分の一である。もしそれが使信であるなら、それは、神殿の頭石として完成に至る「真夜中の叫び」の使信であり、また第二の天使の使信の力強めに関する使信である。

そして言われた、「このゆえに、人は父と母を離れ、その妻と結び合い、そして二人は一体となるではないか。ゆえに、彼らはもはや二人ではなく、一体である。ゆえに、

神が結び合わせたものを、人は引き離してはならない。」マタイによる福音書  
19章5、6節。

今回の記事でこの研究を続けます。

私は、あらためてキリストの初臨の告知に目を向けるよう示された。ヨハネは、イエスの道を備えるために、エリヤの霊と力をもって遣わされた。ヨハネの証しを退けた者たちは、イエスの教えから益を受けることがなかった。その到来を予告するメッセージに反対したことによって、彼らは、彼がメシアであることを示す最も確かな証拠を容易に受け入れられない立場に自らを置いた。サタンは、ヨハネのメッセージを拒んだ者たちをさらに先へと駆り立て、キリストをも拒み、十字架につけるに至らせた。こうして彼らは、彼らに天の聖所へ入る道を教えるはずであった五旬節の日の祝福を受けることのできないところに自らを置いてしまった。神殿の幕が裂けたことは、ユダヤ人の犠牲と儀式がもはや受け入れられないことを示していた。大いなる犠牲はささげられ、受け入れられた。そして五旬節の日に降った聖霊は、弟子たちの心を地上の聖所から天の聖所へと向けた。そこへは、イエスがご自身の血によって入り、弟子たちにご自身の贖いの効力を注ぐためであった。しかし、ユダヤ人たちは全くの暗闇の中に取り残された。彼らは、救いの計画について持ち得たはずのすべての光を失い、それでもなお、そのむなしい犠牲と供え物に信頼し続けた。天の聖所が地上の聖所にとって代わっていたが、彼らはその変化を何も知らなかった。ゆえに彼らは、聖所におけるキリストの執り成しから益を受けることができなかった。

多くの人々は、ユダヤ人がキリストを退けて十字架につけた歩みを恐怖をもって見つめる。また、主が受けた恥ずべき虐待の歴史を読むとき、自分たちは主を愛しており、ペテロのように主を否認したり、ユダヤ人のように主を十字架につけたりはしなかっただろうと考える。しかし、すべての者の心を読み取られる神は、彼らが抱いていると公言したイエスへの愛を試練におかれた。天のすべては、第一の天使のメッセージがどのように受け入れられるかを、最も深い関心をもって見守った。ところが、イエスを愛すると公言し、十字架の物語を読みながら涙を流した多くの者が、主の来臨の良い知らせを嘲った。彼らはそのメッセージを喜んで受け入れるどころか、それを妄想だと宣言した。彼らは主の現れを愛する者たちを憎み、教会から締め出した。第一のメッセージを退けた者は第二のメッセージによって益を受けることができず、また、信仰によってイエスとともに天の聖所の至聖所に入る備えをさせるはずであった真夜中の叫びによっても益を受けなかった。そして先の二つのメッセージを拒んだことにより、彼らの理解は暗くなり、至聖所への道を示す第三の天使のメッセージの中に光を見いだすことができなくなっている。私は、ユダヤ人がイエスを十字架につけたように、名ばかりの諸教会がこれらのメッセージを十字架につけてしまったことを見た。そのため、彼らは至聖所への道を何も知らず、そこでのイエスのとりなしによって益を受けることができない。無益な犠牲をささげたユダヤ人のように、彼らはイエスが去られた区画に無益な祈りをささげる。そしてその欺きに満足したサタンは、宗教的な装いをまとい、彼の力とするしと偽りの不思議をもって働き、これら自称クリスチャンたちの心を自分のほうへと導き、彼らを自分の罠にしっかりとかからせる。